

令和元年度第1回 犬山市総合教育会議 会議録

日時：令和元年5月28日（月）午後2時

場所：犬山市役所503会議室

◆出席者

市長 山田拓郎

教育長 滝 誠

教育委員 教育長職務代理者 高木浩行 委員 紀藤統一 委員 奥村康祐

委員 小倉志保 委員 堀 美鈴

アドバイザー 県立犬山高等学校 校長 祖父江泰浩

県立犬山南高等学校 校長 福島 宏

事務局 【経営部】

鈴木経営部長

企画広報課 井出企画広報課長

小枝統括主査

【教育部】

中村教育部長

小島子ども・子育て監

学校教育課 長瀬課長

神谷主幹兼指導室長

記録者 企画広報課 小枝統括主査

傍聴者 0名

◆次第

1 開 会

2 あいさつ

3 協議事項

(1) 令和元年度総合教育会議のスケジュールについて

(2) 子ども未来園のあり方について

(3) 小中学校のあり方について

4 自由討議

5 その他

6 閉 会

◆会議要旨

協議事項(1) 令和元年度総合教育会議のスケジュールについて

- ・事務局より資料1を用いて令和元年度のスケジュール(案)を提示。

協議事項(2) 子ども未来園のあり方について

- ・事務局より資料2-1、2-2について説明

【主な意見】

- ・財政的なことを考えたときに、公立を続けられるのか。保育の質を落とさないことを考えると、集約化では済まずに統合化が大事なのではないか。
- ・お母さんたちが早く仕事に就くようになったと感じる。0、1歳児のところは、もっと要望があるのではなか。
- ・今後、コンセンサスを図りながら進めていくことになるが、令和4年までに橋爪と五郎丸子ども未来園の統合。その次に羽黒北との統合も視野に入れて、羽黒子ども未来園を市民プール跡地に移転させたい。
- ・まだ整理できていないが、子ども未来園と犬山幼稚園の見直しも必要ではないか。その流れも考えた方がよい。

協議事項(3) 小中学校のあり方について

- ・事務局より資料3、4について説明

【主な意見】

- ・まずは城東小学校と城東中学校のあり方、その次、または並行して東小と東部中学校のあり方を考えるべき。
- ・今井、栗栖、池野小学校が、今後、クラスという単位として成り立つのか検討していきたい。
- ・住む人たちの思いを無視できない。
- ・「残す」と決めれば、そのために必要な手段＝住みやすい環境を行政で整えていただきたい。
- ・地域の人にも協力をお願いしていく方向で、児童・生徒数が増える方法を考えるのが一番。
- ・城東小学校、城東中学校を一つにしたら、400メートルトラックができるのではないか。また、小中の先生が移動しやすく小中の交流校のようなものが作られて、新たな教育システムが生まれるのではないか。
- ・今井子ども未来園は小学校の中に入れたいか。色々な工夫や「犬山市ならでは」というものがあると良い。
- ・校区の問題。北小学校や今井小学校から城東中学校に通う子どものことも考えないといけない。
- ・地域によっては学校選択制も必要になってくるかもしれない。
- ・今井、栗栖は個性を持った選択肢として仕立てたらどうか。

自由討議

○教科担任制について

【主な意見】

- ・どんどん教科が増えていく中で、全てを担当がこなすのは不可能に近い。今後は考えていくべきだろう。
- ・働き方改革にもなるし進めた方がよい。
- ・小学校の高学年くらいはそういった方向に持っていけるとよい。
- ・モデル校を作ってやってみてはどうか。

◆会議録

司 会 (井出企画広報課長)	こんにちは。
出席者	こんにちは。
司 会	<p>田中委員がまだいらっしゃいませんが、定刻となりましたので、ただいまから令和元年度第1回 犬山市総合教育会議を開催いたします。</p> <p>1点、お願い申し上げます。本日の会議は「犬山市総合教育会議運営要項」第4条に基づき、公開とさせていただきます。併せて、インターネット映像配信サービス「YouTube」での中継も行っていますので、傍聴人の方々もご承いただきますよう、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、はじめに山田市長からご挨拶を申し上げます。</p>
山田市長	みなさん、こんにちは。
出席者	こんにちは。
山田市長	<p>大変お忙しいところ総合教育会議にご出席いただきましてありがとうございます。</p> <p>今朝、またショッキングな事件がありまして、本当にとんでもないな、と。本当に腹が立つ許せない事件ですけれども、早速、朝一番に教育長と話をし、見守りの強化に向けた呼びかけと言いますか、各学校長宛てに早速文書を出していただきまして、いち早く対応していただきまして、ありがとうございます。ああいうとんでもないことをする人が遠くのどこか他所の出来事ということではなくて、今はテロも含めてどこで何が起きるかわからない。「『起きるかもしれない』という立ち位置にたつたほうがいい」ということで、もちろんこの間の大津の交通事故のこともそうですが、完璧にこれを無くするという事はなかなか現実的に課題があるかも知れませんが、でもやはり子どもたちの安全・安心を本当に地域全体で守って行くということをしっかりみんなで一緒になって考えて、そういった体制を構築していくということが大事だと思っていますので、とにかく今朝のことを含めて、早速対応をしていただきましたことに感謝を申し上げますし、また、これから組み立てていかなければいけないこともあると思いますので、また現場のほうでもご協力いただきますことをよろしくお願いしたいと思います。</p> <p>今日は議題がございますが、皆さんからも忌憚のないご意見をいただいて、いい会議になりますことをご祈念申し上げて私からの冒頭の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p>
司 会	続きまして、滝教育長、よろしくお願いいたします。
滝教育長	<p>はい。</p> <p>みなさん、こんにちは。</p>
出席者	こんにちは。
滝教育長	<p>今、市長からもお話がありましたが、朝、秘書のほうから連絡がありまして、「市長が用事があるからちょっと来てくれ」ということで、また何か粗相があったのかとひやひやしながら市長室に参りましたら、川崎の今の事件のことを聞きました。私ども通勤時間帯のことでしたので、全く情報がなくて、初めて聞いて「え？そんなことがあったのか」とびっくりしました。部屋に戻ってテレビを付けましたら、どの局もそれをやり放しの状況でした。本当にどこで何が起きるかわからないな、と。市長からも早急に対応して欲しいという要請がございましたので早速文書を作</p>

って、学校現場には、「まず、現状を正しく把握してくれ」と。今、問題がどんな現状であるか把握していただくということ。それから今、現にご協力いただいている方には感謝をすると同時に、更に見守りの強化をお願いして欲しいということと、それから地域や家庭に対して新たにボランティアとして加わっていただける方がみえたらその補充をしてくれということ働きかけました。方法については地域、学校の実情がありますので、それぞれの学校の実情に応じて。またこれは早急に対応していただきたいわけですが、なかなかすぐに結論が出づら部分もあるので、対応にある程度目途がついたところで「文書でもって市長に報告するように」という依頼がしてありますので、早いところでは今週いっぱいぐらいには連絡があるのではないかな、と思っています。先ほども遠くの出来事ではなくて、いつ犬山でもこういったことが起こるかも知れませんが、何かが起こってからの対応ではなくて、早めの対応に心がけていきたいと改めて思ったところです。

話は変わります。今日は比較的過ごしやすい日になっておりますけれども、まだ5月だというのに連日暑い日が続いております。昨日あたりは全国で3名ほどの方が熱中症で亡くなられたという報道を耳にして「大変だな」ということを思っております。また一昨日は涼しいはずの北海道で40度に迫る暑さだったと聞いております。先週の土曜日ー25日ではありますが、全国各地の小学校で運動会が実施されるところがございました。どの学校もこの暑さの中の行事でありますので、熱中症対策には随分苦慮されたのではないかなと想像しますが、運動会につきまして、ここ数年、半日開催に行く小学校が増えてきているのが現状であります。これについては賛否の声があるのは承知をしております。例えば賛成の方は、「やはりこの暑さの中で1日子どもが外で活動していいのか」という意見もあれば、「子どもたちが本当に楽しみにしている運動会を半日で打ち切っていいのか」という意見もあるわけですが、賛否どちらも頷く部分もありますが、「これについてはどうかな」と思う部分もあります。「集団行動や規律は運動会を通して身につけるべきである」という考えがあります。逆に「運動会をやらなければ集団行動や規律が身につけられないのか」いや、そんなことはないだろうと思います。また、「子どもたちの意見を聞いて決めるべきである」と。では「子どもたちが『やりたい』と言ったらやらせるのか」というとやはりそうではないだろうと思います。色々疑問に思う部分はありますが、ただ結論を出すには子どもも地域も保護者の方も全ての方ができるだけ多く納得するような形で結論を導かなければ、後からの対応が大変だな、と思います。今のところ犬山市内ではそういった声は聞いておりません。ただ、今年度については一昨年度まではみんな同一日に実施をしましたが一9月の末に。今年は犬山北小学校、今井小学校、栗栖小学校、楽田小学校、池野小学校、東小学校の6校がこれまでどおり9月の末ー9月の21日に実施をする予定です。羽黒小学校と犬山西小学校は10月の5日、2週間ばかりずれています。それから犬山南小学校が10月19日。城東小学校については10月26日ということで、「1日活動させるならば、暑くて心配する時期ではなくて、涼しくて活動しやすい時期に移そうではないか」ということでそれぞれの学校がお考えいただいた措置であります。やはり何よりも大事なことは「子どもたちの大切な命を守る」ということであります。暑さ対策も含めて学校、地域の事情に応じて学校毎に時期を決定していくという方法できておりますけれども、今年は様々な時期に実施をし、それぞれが「どうだったか」ということを持ち寄って、またその次の年の開催日については全体で協議をしていくことになるだろうなということを思っております。今のところ半日開催の声は聞いてはいない状況です。

	<p>また、今年の夏は去年以上に暑くなることが予想されます。夏休みのプール解放につきましては、昨年に準じた対応が必要になってくるのではないかと考えています。犬山では市長に行政判断をいただいて、小中学校へのエアコン設置も順調に進んでおりまして、夏休みを含めたその前後の1年で最も暑い時期に子どもたちが快適な環境の中で学校生活を送ることができるのではないかな、と思っておりますし、その判断をしていただきました市長には本当に感謝をするばかりであります。ありがとうございます。</p> <p>本日の総合教育会議は、子ども未来園をはじめ小中学校の未来について意見交換を行う大切な会議でございます。どちらも容易に結論が導き出せるような問題ではないと思えますけれども、ある程度の方向性が見えてくるといいな、ということも思っています。更に幼保、小中の上の高等学校2校から2名の校長先生もオブザーバーでおいでをいただいておりますので、高い立場からまたご指導をいただいて、これからの犬山の幼保小中、高校生をみんなで見つけ出していけるいい機会になればいいな、と思っておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。以上です。</p>
司 会	<p>ただいま滝教育長からお話がありましたように、本日はアドバイザーとして犬山高校の祖父江校長先生、犬山南高校の福島校長先生にご出席をいただいております。ありがとうございます。</p> <p>それでは議事に入ります前に資料の確認をさせていただきます。</p> <p>次第、それから名簿に続きまして資料1として「会議開催スケジュール」、資料2の1として「子ども未来園の今後のあり方」、資料2の2として、資料2の1の補足資料です。資料3として「平成30年度以降の学校区別児童生徒数の推移表」。資料4として「事業別学校施設整備状況表」、以上となります。不足等ございませんか。</p> <p>はい。では、議事に移らせていただきます。</p> <p>これ以降は運営要綱第3条に基づき、山田市長に議事進行をお願いします。</p>
山田市長	<p>はい。では、私のほうで議題を進行させていただきます。</p> <p>議題の1「令和元年度 総合教育会議のスケジュールについて」事務局のほうから説明をお願いします。</p>
事務局(小枝)	<p>はい。私から今年度のスケジュールについて説明させていただきます。</p> <p>資料1をご覧ください。こちらのスケジュールは、前回の総合教育会議とその後の定例教育会議でのやりとりを参考に作成したものととなります。本日、この後の議論によって変更があるかも知れませんが、今年度は計3回開催し、子ども未来園のあり方、小中学校のあり方について、を通年の議題としております。これに加えまして、第2回では昨年と同様に翌年度に予定している教育関係主要事業について。第3回では、読解力(向上)にかかる教育施策の検証と翌年度の取り組みについて報告をします。こちらは現時点での予定となりますので、今後の総合教育会議、定例教育委員会等における議論を参考に变更させていただく場合がありますので、予めご了承ください。なお、各会議の後段では、本日もありますように委員の皆様による自由討議の時間を設定します。最後、一番下に「緊急会議」というものがあります。これは法に基づき「児童、生徒等の生命又は身体に現に被害が生じ、又はまさに被害が生じるおそれがあると見込まれる場合等の緊急の場合に講ずるべき措置」ということで、本来、あってはならないことですが、緊急の事態が起こった際には、皆さまにお集まりいただくこととなりますので、よろしくお願いをいたします。以上です。</p>
山田市長	<p>はい。説明は終わりました。これについて何かご意見、ございますでしょうか。</p>

	<p>よろしいですか。スケジュールのことですので、ご確認いただいて、特に何かあれば。いいですか。</p> <p>はい。では、議題の1は、今、説明のあったようなスケジュールで今年度は取り組んでいくということでご承知おきいただきたいと思います。</p> <p>議題を進めていく中でまた祖父江先生と福島先生には後ほどご意見をうかがうこともあると思います。またその時にお願いしたいと思います。</p> <p>次に2件目。「子ども未来園のあり方について」、まず事務局のほうから説明をお願いします。</p>
事務局 (小島子ども子育て監)	<p>はい。それでは私のほうから説明させていただきます。</p> <p>資料2の1、資料2の2をお手元にご用意お願いいたします。</p> <p>「子ども未来園の今後のあり方」としての小冊子となっております。1枚めくっていただいて、1ページをお願いいたします。前段のところでは「保育を取りまく状況」や当市の「子ども未来園の状況」が記載してあります。</p> <p>2ページのところから当市の状況になります。2ページをお願いいたします。子ども未来園は(建)築後35年から45年以上が経過しております。施設の老朽化が課題となっております。続きまして3ページになりますが、当市の就学前人口と園児数が記載されております。資料2の2につきましては、この資料が平成28年度までの数値となっておりますので、その補足として平成30年までの数が示してあります。就学前人口や園児数全体の減少が見られますが、その一方で3歳未満児の入園数はほぼ横ばいの状況です。3歳未満児につきましては、保育士1人あたりで保育ができる子どもの数が少ないため保育士不足が続いております。</p> <p>次に5ページをお願いします。5ページには「子ども未来園の課題とその対応」として、「1.施設整備」、「2.少子化と保育ニーズの変化」、「3.保育所運営と財政負担」。この3つの課題が挙げられております。</p> <p>6ページをお願いいたします。このあり方をまとめるにあたり、保護者と保育士を対象にアンケートを実施しております。このアンケート結果が6ページ以降に記載してあります。このアンケートでは「駐車場不足」や「保育サービスの充実」を保護者の方からは希望されています。その数値がとても高くなっています。一方で7ページのところでは保育士の意見として「子ども未来園の集約」—この数値が保護者に比べると高くなっているという結果になっております。</p> <p>9ページをご覧ください。「今後の考え方」として、2点挙げております。1点目は「保育機能の見直しと集約化」です。保育ニーズに対応する方策として「土曜日保育」、そして「障害児対応園の集約」を図っております。これにより保育士の適正配置が可能となっております。2点目です。「未来園の統合」。現在の未来園は定員に対する入所率が低い状況です。今後更に園児数が少なくなれば、統合の検討が必要になって参ります。その際、地域性や保育ニーズに対応しながら今後の園のあり方を検討していく必要がございます。説明は以上です。</p>
山田市長	<p>はい。説明は終わりました。この件について皆さんのほうから何かご意見があればご発言をお願いしたいと思います。何かございますでしょうか。</p>
堀委員	<p>はい、よろしいでしょうか。</p>
山田市長	<p>はい、どうぞ。</p>
堀委員	<p>色々な数字を見て、財政的なことも考えたりすると、とても難しいな、というのが一番です。これだけ老朽化しているものを放っておくわけにもいかないし、保護者のニーズで低年齢の子をたくさん入れて欲しい、それから駐車場もやはり広いところが欲しい。一番大事な保育の質もきちんとしたいということ全て考えると</p>

	<p>ると、とても難しいことだと思います。他所の地域、他所の市町を考えると委託—民営化というところがとても多い中、犬山は公立ですずっとやっているということはとてもいいことだと思っています。ただ「このままずっと続けられるかな」というのがとても感じるところです。集約化というよりも統合のほうがどうしてもやっていかなければいけないことなのかな、ということを感じます。</p> <p>保育士のアンケートのところで、「子ども未来園を統合する」というところが一番多いというのを鑑みますと、「保育の質を落とさない」というと、集約化だけでは済まずにやはり統合というところが大事なのかな、ということがこれを見て思いました。</p>
山田市長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>他にありますでしょうか。</p>
小倉委員	はい。
山田市長	はい、小倉委員。
小倉委員	<p>はい。私が感じるところで、0、1、2の未満児の子どもたちのことですが、数としては変わらないというデータがここに出されています。要望としてもっといいのではないかと。（未来園に）入れたのがこの人数であったり、だけれど、残っている「預けたいけど定員が・・・」とか「お兄さんやお姉さんと一緒に行けないから預けるのを止めておこう」という、隠れている待機児と言うんですか、がいないかと思えます。児童館に来る子どもたちもやはり「3歳になったら幼稚園に入ろう」ということで2歳児の子どもたちがたくさん来ていたのが、今はそうではなくて、低年齢の0、1（歳児）のほうが“ぼんぼこさん”に来ていらっしゃる方が多くなってきて、反対に2歳児の子たちが減ってきているようなので、お母さんたちが早くお仕事に就かれるようになったというのがこの5年、6年で感じるところで、もしかしたら要望としては、3歳児以降のところは空いているけれど、0、1（歳児）のところはもっと要望があるのかなと感じました。その辺を探りたいな、と思いました。以上です。</p>
山田市長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>他にございますでしょうか。</p> <p>少し僕のほうから申し上げますと、結局、「今後どうするか」ということが一番大事なところで、既に内部でこういう方向で進めていこうという—これは僕の思いと言いますか、そういうものは固めていまして、それは今後、教育委員会だとか地域の意見だとかコンセンサスを図りながら進めていくということになるのでしょうかけれども、まず最初、にできれば令和4年までの間に橋爪(子ども未来園)と五郎丸(子ども未来園)を統合して一つにし、新しいものを整備していく。その次の段階として現在借地の上に建っている羽黒子ども未来園を現在の市民プールの跡地に移して、羽黒北(子ども未来園)との統合も視野に入れて新しいものを作って行く。当然、同時に複数の園ができればいいのかも知れませんが、財政的なこともあって順番にということもありますので。なぜ橋爪と五郎丸かと言いますと、既にあそこの地域の都市計画—地区計画というものを策定する時に、地元には「この2つの園は統合する」ということを既に地域とコンセンサスを、平成22年か23年当時に図っています。改めてコンセンサスを図らなければいけないと思いますが、そういうことになっていますので、まず橋爪と五郎丸。羽黒については早くやれるものならやりたいのですが、現在、借地としてお借りしている地権者のみなさんに感謝の気持ちを忘れてはいけませんし、一番困っている時に土地をお借りして建てたわけですから、その契約が「建物の耐用年数が来るまで」になっておりますので、あと8年ぐらいある</p>

	<p>ということですから、それは約束は約束として一地権者の皆さんが「早く他所に行ってくれ」と言われたい限り、それは約束ですので、守っていかなければならない、というようなことで、まずはその2つの地区の取組を進めていくということが私の思いです。</p> <p>更に、これはできるかできないかは別にして、チャレンジするというご承知おきいただきたいのですが、四季の丘に保育園用地一団地を整備する時に保育園用地というものの敷地が既に確保されています。この敷地に民間の保育園を、来てもらえるかは別にして、本気で誘致することにチャレンジしようと考えています。民間の新しい保育園ーこれは今の13園の体制とは別です。民間のそういう所ができれば当然一定の人がシフトするということになれば、おのずと全体の保育園のあり方も変わってくるのではないかと考えていますし、それは元々保育園用地ということで市が寄付を受けたものですので、そういうことに来てもらえるかは別として、チャレンジしたいと私は思っています。ですからせっかくの機会ですので、私の思いを皆さんにお伝えをして情報共有ということで今、申し上げました。色々ご意見もあるかも知れませんが、率直な思いを述べさせていただきましたので、ご承知おきいただきたいと思っています。</p> <p>何か皆さんのほうからあれば、よろしいですか。</p>
奥村委員	はい。
山田市長	はい、奥村委員。
奥村委員	私が思ったことは、全体の人口が減っているということで、教育委員会としてはこれを見て、必要なことを行っていくわけなのですが、市として人口を増やすために団地の造成とかそういうものが、そういうことの未来の想定があるかないかによって、また統合する場所や検討先というのも変わってくると思います。もしそういうものが何かあればお聞かせ願いたいな、と思います。
山田市長	<p>まず我々が今、地道に取り組んでいるのは、市街化区域内の未利用地の宅地化を促進しようということを進めています。楽田でも実際、今、40、50軒ぐらいかな、もう今、そういう開発が進んでいるところもありますし、更にそういう所を増やしていきたいと思っています。ただ、そういう取組をしたからといって、人口が短期間に千人も二千人も増えるわけではないものですから、あくまでも我々としては「減るスピードを鈍らせる」というところだと思います。四季の丘とかもえぎヶ丘レベルの大規模な開発が今どこかであるということではありませんので、まずは市街化区域内の未利用地を少しずつでも宅地化を進めていくと。それから里山エリアで、まずモデル的に栗栖と今井で優良田園住宅制度というものを進めまして、家が建ちやすくするような環境を作りました。ただ、だからといってそこに10軒も20軒もいきなり家が建つわけではないので、我々は「住みたい」というニーズに少しでも応えられるように環境整備をしたということですから、依然として減少傾向は変わらないだろうとは思っています。ただ、そういうようなことで宅地化を促進するという取組は劇的に今の兆候は変わらないにしても、変化は多少なりとも生じてくると思うので、もう少しその辺りの推移を見ていただけたらいいかな、と思います。</p>
奥村委員	ありがとうございます。
山田市長	<p>あとはよろしいですか。</p> <p>では、オブザーバーでお二人おみえですが、何かこの件についてございますか。特に子ども未来園のことになりますけれども。</p>
祖父江校長	本校でも産休・育休でお休みの先生がおみえですがけれども、これは地域によって随分違います。名古屋の東区などですと、何番待ちということで兄弟がみえても違

	うところに預けなければいけないとか、とても条件が厳しいようです。犬山市に合ったやり方をやっていただければと思います。
山田市長	はい。 どうでしょう。
福島校長	特には。
山田市長	わかりました。 はい。ありがとうございます。 では、この2件目の議題についてはこれで終わらせていただきます。 3点目「小中学校のあり方について」、事務局のほうから説明をお願いします。
事務局 (長瀬学校教育課長)	はい。こちらから説明させていただきます。 資料3については、去年お示ししたものの数字の表になっています。児童生徒数はどんどん減っているという状況表になっています。それから先ほど資料4のほうで差し替えをお願いしましたが、見出しのほうを「事業別学校施設整備状況表」というものにさせていただいております。こちらについては先般、定例教のほうで「長寿命化計画」というものをお示ししたかと思います。そちら側の別表の更新バージョンというふうに考えていただきたいと思います。 楽田小学校の改修(改築)事業というのは、総事業費23億何某と書いてあります。こちらについては実施設計料や管理設計料を諸々含んだ事業費になっております。今年から犬山南小学校改修(改築)事業に取り掛かっているところです。こちらについては、今年の予算で校舎の耐力度調査という委託をさせていただきます。それで点数が4,500点以上になれば補強工事、4,500点を下回っていれば大規模改修ができるということで、その判断の下に予算を組みながら建築を考えていきたいと考えています。併せて、同時進行で「地元の方の意見を聴く」ということで、今週、南小学校の学校評価委員会というものが、開催される予定ですので、そこにお邪魔して評価委員の方に色々お願いをしていこうと思っています。南小学校の事業が終わりましたら、次は城東小学校という順で学校の改修事業を進めてやっていこうと思っています。 また下段にあります表については、種類ごとに工事の項目を決めまして、網掛けになっている所は現在、終了したというところになっています。それから太字の斜字については、令和元年度の予算で対応していくという予定でありますので、よろしく願いをいたします。簡単ですが説明は以上になります。
山田市長	はい、説明は終わりました。ただいまの説明、この議題に対してご意見があればご発言をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。何かございますか。いいですか。 大きな一特に学校の整備ということですが。これは、この整備の表がありますが、「施設整備状況表」ですね。
事務局 (長瀬学校教育課長)	はい。それに基づいてやっていますが、突発的なものはここにはないので、別途、予算は付けていただいて、緊急営繕工事のほうでやらせていただくということで予定しています。
滝教育長	一ついいですか。
山田市長	はい。
滝教育長	これは小中学校のあり方というのは、建設のことがメインではないですね？
事務局 (長瀬学校教育課長)	はい。ではないです。今後の方向性であることは・・・
滝教育長	ですね。建物はもちろん切り離して考えることはできないですが、子どもたちが

	減って行く、学校はどういう状況になるか。だからこの学校についてはどういうことが必要かということですよ。ただ、今の修繕のことが中心で説明があったので、事務局のほうで中身の話が少し補足であったほうが皆さんに考えていただく材料になるのではないかな、と思います。児童生徒の話、これについての説明はなかったですね？
事務局 (神谷学校教育課主幹)	はい。では、少し。これは昨年度の定例教、それから総合教育会議でもお示ししてきたものです。「令和」に直してありませんが、1枚目の右端の図を見ますと、平成36年であろうという年、この辺りが先ほどの表でいきますと城東小学校の改築或いは改修に近づいてきます。5年後ぐらいになると思いますが、その辺りに大きく子どもたちが減っていく過渡期を迎えるので、そこまでには何とか方向性を作らないと改修も併せて必要なことになるのでーという意味でこの資料を出させていただきました。右の表の36年度は左側の表の小学校3年生ー21年度のこの子たちが中3になる時になります。残りの表は学校毎になりますので、特に先ほどから名前が挙がっている改修・改築のある城東小学校は極端に減っている学校になります。今年もそうでしたが、約50人ずつ減っていきます。他にも減っていく学校はありますが・・・。
滝教育長	今のこの件について、いいですか。
山田市長	はい。
滝教育長	定例教育委員会の中で高木委員から、これからの児童・生徒数の推移を見て、今後小中学校をどういうふうにするか、ということを検討しなければいけないだろうと。検討をした結果、「今の形を維持しましょう」、或いは「ここについてはこんな手を差し伸べましょう」、或いは「ここここは一つにしましょう」とー結果は色々想定されますが、そういったことをそろそろ真剣に議論を始めなければいけないのではないかと、というご意見を度々いただいていたわけですが、具体的にこういったことを議論する場がこれまで無かったものですから、折角、今日の総合教育会議でこういう場があるものですから、結論は出ないとは思いますが、皆さま方のご意見をお伺いして、議論をした結果、「今のまま残していきましょう」ということであれば、それはそれでいいですし、例えば極端な話、体育でバレーボール、バスケットボール或いはドッチボールがやりたいが、子どもの数が少なくてはなかなかゲームもできないだろうから、体育の授業はこの学校と一緒にやったらどうだとか、或いは音楽で合唱・合奏をやる。複式の学級でありますと5、6人。全校集めても十数名。それで本当に合唱・合奏ができるのか、と言ったら、では音楽の授業については近くの学校と一緒に勉強したらどうだというようなことが議論できるといいだろうな、ということを私は思っていますけれども。この辺り、高木委員さんのご意見を聴いてみたいと思いますが。
山田市長	基本的なことは教育長がおっしゃったけれども、先々のことに向けて議論はしていかなければいけないでしょうし、学校のあり方を考えていこうと思うと、かなり早い段階から地ならしと言いますか、コンセンサスを図るためのアクションを起こさないと、急にはまとまらないので、少なくとも城東小学校を将来整備するー南小の次が城東なので、城東小学校と城東中学校のあり方ー学校も含めて、そのあり方を考えるのがまず一つでしょうね。その次ーその次といいますか並行してなのかわかりませんが、東部中学校と東小学校のあり方を考えることでしょうね。私はそう思います。どうするかこうするかということはここでどうこうということではありませんが。そこら辺のところでしょうね。 議論は早くしなければいけません。議論というかコンセンサスを図るためのアク

	ションは早くしなければいけない。
奥村委員	はい。
山田市長	はい。
奥村委員	今の中で言うと、基本的には小中一貫というような方向性というものを探っていくという意見ですが、もう一つやはり、この表を見ている今井小学校、栗栖小学校、池野小学校一特に池野小学校はまだ今、人数的には100人を超えていますが、4歳児以降から一桁になってしまうと栗栖や今井と変わらない状況から見て、学校という、クラスという単位として成り立つのかどうかということを考えていくと、そういったところも検討していきたいな、という部分は私は非常に思います。
山田市長	はい。他によろしいですか。 高木さんよろしいですか。
高木委員	お願いします。
山田市長	はい。
高木委員	先ほどの子ども未来園とは全く切り離して考えていくべきだろうとは思っています。小学校や中学校の存在意義というのは、ただ単に子どもたちだけのものではないということも把握しております。ただ、それと同時に財政的な一因等も考えていくべきであろうということも思うならば、この場で市長がどんな、先ほどの子ども未来園とは別に思ってみえるもの—小中学校の、簡単に言ってしまうと統廃合について、どんなお考え—これも小学校と中学校とはまた別なのかも知れませんが、その辺りのことは思うわけですが、できれば市長の思いと言うか、その辺りのことも聞かせていただければありがたいと思っています。
山田市長	じつは先ほども少し申し上げましたが、城東小学校の改修が南小の次にこの計画でいくとくるものですから、まず城東小学校と城東中学校のあり方を考えていく必要があるでしょうね。小中一貫も視野に入れてという意味ですけれども。「視野に」というかあり方を検討する。もう一つは東小の学区が全部東中になったものですから、東中も減っていく流れにあるので、ここの—東小と東中のあり方を考えていく必要があるな、と思っています。当然、そういうことを考えていくと学区の問題にも関わってくるので、まずそこだと思います。 それから今井と栗栖は、確かに人数や今後の推移だけを見ると、非常に子どもたちが学ぶ環境として、本当にそれがベストな環境なのかということ、これは今井には保育園もありますけれども、確かに懸念はあります。ただ、僕はもう一つ無視できないのは、やはり今井や栗栖に住む人たちの思いです。今井や栗栖は今までの犬山市政の中で、何かあのエリアのために犬山市が何か率先してまちづくりに取り組んできたかということ、どちらかということ取り残されたエリアだったのかなど。まちづくりの観点ではそこに対する積極的な何か取り組みというのは今まで薄かったと思います。ですから、もう少しまちづくりの取組を栗栖や今井については、行政としても積極的に取り組んで、むしろ今井や栗栖でしかできない展開をもし学校でも図れるのであれば、選択肢としてそれが成り立つような、そういう展開ができるとベストだけれどな、という気はします。ですから住民の皆さんが「少なくなったから切り捨てられた」というふうな思いになるのは避けたいと思います。頑張っ、頑張っ、頑張っだけれども、「子どもたちにとってあり方を考える時ですね。」というのは、きっと住民の皆さんの意識の中にもどこかには出てくると思うので、そういうふうに皆さんと本当に向き合えるような状態になるまでは頑張りたいと思っています。ただ、それと同時に今申し上げた「小規模だから魅力がない」ということではなくて、今井や栗栖でしかできない何か—それが選択肢になるような学校

	<p>が作れると面白いな、とは思いますが。それは公立では無理でしょうね。公立として展開しようと思うとなかなか難しいかも知れない。学区とかそういうものも取っ払ってしまって、ひょっとすると民間も含めて何か選択肢としての受け皿に仕立て上げていくということも先々はあるかも知れません。そんな考え方を持っています。</p>
紀藤委員	<p>よろしいですか。</p>
山田市長	<p>はい。</p>
紀藤委員	<p>今、今井とか栗栖も段々生徒・児童数が減ってきているという話で、逆転の発想で、僕は今井、栗栖を残すという方法を決めれば、「では残すためにどんな手立てが必要か」ということを考えていく。もう最初から無くして統合するという方法であれば、統合する方法を考えていかなければいけないので、今、市長さんの考え方で今井や栗栖にとっては、学校はすごく大事なものだと思うので、残すという方法で考えていくとさっき言った未利用地の……。それから外部からどんどん今井に住みやすい環境を、行政のほうで一条例等で作っていただく、そんな手立てをしていって、増えてくれば残るんじゃないか。離島でも今、本当に困っていて「統合しよう」という発想に持っていわずに「残そう」という発想に持っていって、島から出て行った若者が全部戻れるように住宅を供給する、それも格安で。それが行政の方向で決めたみたいですけども、それでどんどん戻ってきて、今まで島にいた人たちだからみんな受け入れ易い。だから今まで今井に住んで居た人が住んで居なかった人でも入りやすい地域に、協力してもらって変えていけば、僕はある程度の小規模校は成り立っていくのではないかという思いはしています。だから是非、地域の人にも協力をお願いしていくような方向で、まず児童・生徒数が増えてくる方法を考えていくのが一番かな、と。市長さんがおっしゃったように「それをやったけれどもやはりだめだった」なら、すんなりと「スクールバスでもなんでも配置するから」と、考え方を改めていただくことも出来るだろうとは思いますが。</p> <p>それから、私自身は今、城東地区に住んでいるので、城東小学校と城東中学校—この前城東中学校の学校訪問をやって、100メートルの直線コースが取れない、という話をしていました。上から見たら斜めにしか……。多分あれは体力測定をするためにとった線だと思いますが。城東小学校からずっといったら400メートルのトラックができるのではないかと。「400メートルのトラックができれば、ここで大会ができるよね」と。そうするともっと人が集まってくるようないい学校になるので、是非そういう方向で、一貫校というだけではなくて、教員もそれから小学校の高学年は教科担任制に移行していくことも考えると小中の先生がどんどん移動しやすい距離ですので、移動しながら少しずつその方向を、より犬山に合った小中一貫校—小中の交流校と言いますか、そういうものが作られて新たな教育システムが生まれてくるように思います。ちょうど城東小学校の校舎の改築を考えたならば、城東中も一緒に考えていただくのがメリットが大きいかなと思います。</p>
山田市長	<p>はい、堀さん。</p>
堀委員	<p>はい。さっきの未来園の続きになりますが、今井の未来園が、あそこは城東第2の分園になっていますが、小学校の中に入れられないかな、といつも思っていて、例えば認定にすれば、「もう少し集まるかな」、認定こども園を一緒に入れたら。だから先ほど市長がおっしゃったように、少し色々な工夫をすれば、集まるかな、と。やはり財政的なことももちろん今井未来園一つをやっていくのもとてもお金のかかることなので、その辺りを考えて色々工夫ができるといいのと、「犬山市ならでは」というものがあるといいな、と思います。</p>
山田市長	<p>はい、ありがとうございます。</p>

	あとよろしいですか。
滝教育長	いいですか。
山田市長	はい。
滝教育長	<p>今、皆さんのご意見を聴いて非常に夢が出てきたな、という気がしないでもないです。あの地区に幼、小、中のそれこそ12年の一貫の学校、保育施設ができれば素晴らしいな、と思います。特に小学校も中学校も段々と四季の丘やもえぎヶ丘の子どもたちが減っていくとなると学校自体の子ども数が減ってくるものですから、小中合わせれば、更に保育園の子どもたちもそこに集まった施設になれば、城東地区の教育の中心地になっていきます。先ほど運動場の件もありました。小学校と中学校の間一真ん中に1本道路を挟んでいます、今の状況ですと中学校にはサッカーのコートが描けないです。だから中学校でサッカーの大会ができるのは、東中か南中しかない。城中にはサッカーゴールを置けるだけのスペースがありませんので、あの真ん中の道路を取り払って、小学校と中学校と一緒に敷地にしたらものすごく大きな運動場になるし、小学校の運動も楽にできるし、中学校の体育大会もできる。またひょっとしたら保育園と小学校も合同で何かやろうと思ったらできる、というとても夢があつていいな、と思う反面、現在城東中学校には北小学校の子どもたちが半分少し、多いです。北小の卒業生が犬中と城中に分かれていきます。しばらくは犬中に行く子どものほうが多かったのですが、今、多分城中に行く子どものほうが数が多いと思います。この子たちは北小学校で学んで城東中学校へ行く。それから今井の子どもたちは、今井小学校で学んで城東中学校へ行く。東の前原地区の子どもたちはかつては城東中に来ていましたが、今、全部東部中へ行くようになりましたので、今は今井小学校の一部、北小学校の半分近く、城東小学校の全部が城東中学校へ進学するわけです。例えば小中一貫といった場合に、一緒に校舎にしようとする、では北小から城中に通う子どもはどうするのか。今井から城中に通う子どもは小学校の6年間どうするのか、といったときに、校区を変えるのか、或いは小学校から城東小学校へ行くような体制を取るのかといったことが問題になります。そうすると例えば北小学校をみんな犬中へ行けるようにしようかということ、今度犬中が一かつて1千人を超えるような学校でしたので、50人、60人が来ても学校がパンクするようなことはないと思いますが、学校の適正規模というのは一文科省が言っているのは、12学級から18学級ですか一小中学校については、小学校ですと1学年2から3、中学校が1学年4から6（クラス）というのが多分適正規模です。これは私、特別支援学級は含まないと思っていましたが、色々聞いてみますと特別支援学級も含めてこの数のようでありますので、特別支援学級については少し別にしておかないと話がこんがらがってしまっていけませんけれども。適正規模からいくとなかなか犬山中学校の大規模状況が解消できないことになります。しかしこのまま放っておくと一もちろん北小学校を犬中に行くようにしてしましますと今度は城東中学校の規模が縮小されてしまって適正規模から小さくなる危険性があります。ですから色々な問題が含まれていますので、例えば城東小、城東中を一貫にしたらどうだと言って「いいね」だけではなくて、小学校段階の今井の子どもたちや犬山北小学校の子どもたちも含めて考えていかないと上手くいかない、ということをまず一つ思いましたが、城東地区に小中一貫校のような学校ができれば色々な面で楽しいな、という夢が一つふくらみました。</p> <p>それからもう一つですが、今、今井、栗栖の話が出ました。池野もあります、全国的にどの地区でも統廃合が今、盛んに行われています。その対象となっている学校は池野ぐらの学校が多いです。もう今井、栗栖規模の学校が、今、この犬山</p>

	<p>市に存在をするとすると、みなさんびっくりされます。それから他の市町の教育長さんも、完全複式学級になったら統廃合を考えるという方が多くみえます。犬山は今井も栗栖も完全複式学級だけれども統廃合はしない。私の全く個人的な意見です。私は、全国で統廃合が進んでいますので、こういう時代、小さな学校はなくなってしまふ。だからこそ今の栗栖小学校や今井小学校のような学校は存続をさせたいというのが私の個人的な考えです。ただし、それでいくと、本当に今のままでいいのか、ということ考えた時にある地区の教育長さんがおっしゃったのは、保護者は子どもをもう少し別の環境で本当は学ばせたいと考えている。でも地域へ帰ってそんなことを言おうものなら「お前は出ていけ」と言われてしまうものだから、地域の中に入ると「この学校をこのままで存続させて欲しい」ということを無理におっしゃってみえるような所がある。でも本音としては子どもをもう少し大きな生徒数の多いところへ通わせたいと思ってみえる方がいらっしゃるんですよ、ということをおっしゃってみえます。だから僕は「存続ありき」、「統廃合ありき」ではいけません、色々考えてみたときに、今の栗栖や今井の子どもたちは、教科によっては、例えば今井の子どもたちが城東小学校へ音楽や体育の授業だけはやりに行く、栗栖の子どもたちが北小学校にやりに行くという、そういったもう少し柔軟な考え方で子どもたちの学ぶ場所を考えてやることも必要だな、ということ最近強く思うようになってきました。以上です。</p>
山田市長	<p>はい。 他によろしいでしょうか。</p>
紀藤委員	<p>自由学校制もあるし、学校選択制もあるので、地域によってはそういうところも必要になってくるかもしれません。確かに3校が集まって、寄せ集めのように中学校になると一貫校というのは難しいと思うので……。さっき一貫校と言わなかったのは、そういうこともふまえて少しずつ変わって行って、では「こちらに来てずっと続けたい人は、最初から自由においで」というような自由学校を設けてもいいのかな、とは思いますが。是非とも犬山の丘陵地ではないですけどそういう地域と、都市部というか、児童・生徒のいるところとは全く違うので、均一にやろうというのが難しいので、違ってもいいからそれぞれの特徴を生かせるように。行政としてはお金がかかるので、お金はできるだけ節約して、というようなことで知恵を絞ればなんとかかならないかなとは思いますが。あまり小規模校になってしまうと確かに大変かな、と思いますので。その辺で生徒数、児童数を増やすというような手立てを残していかないと、と思います。</p>
山田市長	<p>はい。他によろしいですか。 はい、奥村委員。</p>
奥村委員	<p>今井小学校や栗栖小学校－田舎だから人が居ないということだけでなく、児童・生徒を増やすために、例えば学区を失くすというか、先ほどのような話で、色々な犬山市の地区から誰でも栗栖や今井の環境に来たい方－例えば大人数の中に馴染めない子どもとかをそういうふうに通わせる－そういうような措置も検討していけたら非常にいいのかな、と。犬山市内でも現に学校に来られていない生徒がいるので、そういうような子どもたちを集めると、また上手くいくのかな、と思います。</p> <p>また、例えば現実かどうか分かりませんが、例えば通信制や定時制のような小中学校がもしあれば、学校に行けない子どもたちが登録をして人数が増えるというような少しドラマチックなことも考えましたが、そういう方法でも。そうすると犬山市外からも登録する生徒が非常に増えて、ネット環境とかを使って生徒を増やして、それを見て「こんな自然の学校なら一歩足を運びたい」と思って、通信から実際に</p>

	学校に行くということもできるのかな、というふうにも思ったりします。
山田市長	<p>私も先ほど申し上げましたが、今井、栗栖は、やはり個性を持った選択肢として仕立てないとだめでしょうね。先ほども触れましたが、学区も少しフレキシブルな状態にして、「ここを選びたい」、「ここに通わせたい」そういう選択肢に仕立てる必要があるでしょうね。極端なことを言うと、公立ではその可能性に限界がある部分があるので、公立であることも前提からとっばらったほうがいいでしょうね。別に公立でもいいです。公立でそういう選択肢が確立できるのであれば僕はそれでいいと思いますが。極端なことを言うと今の国語と反するかも知れませんが、「この学校は英語をとことんやる」とか、「プログラミングをとことんやる」とか、選択肢として確立しない限りどこでもある学校だったら「違うかな」という気もするので、そういうところは民間のノウハウも生かした展開ということも可能性を探る中では、そこまで視野を広げて研究したほうが良いような気がします、僕は個人的に。いずれにしても今井、栗栖は「少ないから切り捨てる」とかそういうことではなくて、やはり今井、栗栖の良さを発揮できる学校としてチャレンジをしていく—そういう可能性のある学校だと僕はそう認識をしています。</p> <p>あとは、よろしいですか。</p> <p>はい、小倉委員</p>
小倉委員	<p>前に校長先生の小川さんに栗栖の話聞いたとき、住民の人が「ここから小学校を持っていかれると、ここは本当に過疎になってしまうので、学校を中心にまちを残すことを考えていきたい」という話をされているので、単純にここを失くすということは考えられないという話を聞きました。その時に初めて住民の人がどういうふうに思っているのか。制度として他の地域の人が住めるような—今まで住めなかった土地だけれど、住めるように一步・・・今年変えていっているのも事実だけれど、反対に今井とか栗栖の人たちは他の人たちが入ってくることを「良し」と思っているのか「ちょっと嫌だな」と思っているのかその辺のところは何かご存知ですか。</p>
山田市長	<p>両方の意見があるでしょう。基本的には地域が持続して欲しいとは皆さん思っているはずですが。だから「何とかしてほしい」とは思ってるんですけど。</p>
小倉委員	<p>「今、居る人で持続したい」のか、「来てもいいよ」と受け入れ・・・</p>
山田市長	<p>色々な意見はあるでしょうけれど、ただし、今井なども実際に新しく外から入ってきて、「住もう」という人もいますので、割とその辺は柔軟になってきていると思います。栗栖も今、まちづくりで外の人が入ってきて、そこに地元の住人にも関わっていただいているので、むしろ栗栖が盛り上がるように、ということは思っておられると思うので、みんながみんなそうではないかも知れませんが。中には「そんな人かわからないのはそう入ってきてもらいたくない」と思っている人もいますが、僕は恐らくそういう人は少ないのではないかと考えています、感覚的に。結構「外からの人を入れよう」という—住むかどうかは別として、例えば今井でもマルシェをやって、あそこに人を入れようということを若い人たちが取り組んだりしているらしいですし、栗栖でも「ミラマチ栗栖」というところがまちづくりのことで色々な人に入ってもらおうということをしているので、割とそういう地域が持続するために人に入ってもらいたいという空気が強いと感じていますけれども。</p>
小倉委員	<p>若い世代と・・・</p>
山田市長	<p>いや、年配の人たちもそういう人がいます。「ミラマチ」でも年配の人は結構入っていますよね？あそこは年配の人のほうが多い。</p>

	<p>栗栖が120世帯ぐらいしかないので一確かそれぐらいですね。割とそういう空気ではないですか。</p> <p>課長、どうですか。言いにくいかも知れませんが。</p>
事務局 (長瀬学校教育課長)	<p>私見ですけど、今、うちの周りに新しく引っ越してきている人は、10年ぐらい前から住んでいる人はぼつぼつみえますけれど、挨拶程度な感じで、節度ある暮らしをしていただければ、土地は余っていますので、住んでいただければ大歓迎です。</p>
山田市長	<p>今井などでも割とコミュニティができたので、そういう人たちもあまり外から来たからということではなくて、「一緒にやっっていこう」という空気はあるような感触はしますね。</p>
高木委員	<p>その辺は私も全く同感です。割とウエルカムな状況になっているのではないかと。10年前や20年前とは全く違う雰囲気だと思います。</p>
山田市長	<p>そうですね。今井のコミュニティの人たちは割と年齢層が高い人たちですけど、まちづくりをやっている人は、「排除するよりもむしろウエルカムな姿勢で臨みましょう」という前向きなマインドの人が多いと思うので、そういう所には割と年配の人が関わっている・・・ほとんど年配の人が中心になっているので、そういう空気ではないですかね。</p>
小倉委員	<p>テレビで、村がどんどん過疎になっていくから、人に来て欲しいという思いで、町のホームページに「来ませんか」というものがあって、それを見た人が（現地を）見に行き、そうしたらお世話役みたいな人の一民泊なんですけど、そこに行ってくださいと言われて、そこでみんなでお酒を飲んで、そこで「こんなにいい町なら住みたいわ」と、みんながどんどん来て、年間で千何人ずつ増えていく、というテレビを見たんですけど、それは本当にまちの人が「みんなに来て欲しい」ということをアピールして、飲み場所になっている所に色々な人が仕事が終わったら集まって、「こんな場所でこんなことをしようよ」「こんな楽しいことがあるよ」とアピールをされて、マジックにかけられるみたいな一まちぐるみで、住んでいる人たちの力で増やしているんだな、と感じましたが、もちろん栗栖にお願い一栗栖に投げっ放しではなくて、周りにいる私たちも一緒にそれを盛り上げていかなければいけないと思って、そういう土壤があるのかなと。</p>
山田市長	<p>問題は物件がないんです。今、おっしゃったところは、「住みたい」という時に「ここで住んでいいですよ」という場所があるからなんですけれど、きっと栗栖や今井でも住みたい人はいるんです。住民もウエルカムなんですけれど、空き家があっても、空き家の所有者の方がなかなか貸したり、売ったりということにならないものですから。そうすると、さっき言ったように「建てやすくしていくことで、そこに入ってきていただくという流れができるといいよね」ということです。ただ、これはそういう移住に取り組んでいるまちでも、「何でもいいからとにかく来て」ということではなくて、「このまちはこういうルールです」と一今井でも栗栖でも。「この地域はこういうしきたりです」ということがちゃんと認識が共有化できた上で選んでいただく。もっと言うと、住む人を選別するわけではありませんが、そういうふうに理解していただきながら入っていただくという、それがやはり長い目で見たときの大事なポイントでもあるのかな、と思います。それは住民の人が何かめんどくさいことを言っているということではなくて、やはり町内のルールはありますから、そういうものをきちっと理解していただきながら、住むということにしていけないと一新住民と旧住民の間でその辺りの認識がずれていると、「こんなはずじゃなかった」とか「やっぱり新しい人が入ってくると何かちょっとトラブルが起きるね」というふうに言われてしまうので、そのすり合わせはしていく必要があ</p>

	るでしょうね。説明もいるでしょうし。
滝教育長	いいですか。
山田市長	はい。
滝教育長	<p>なんでもそうですけれども、賛成の方は多くても声が小さい。反対の方は少なくても声が大きいから気になってしまう部分があります。かつて栗栖の校長をお勤めだった先生が、やはり子どもの数が減っていくということに「何とか歯止めをかけたい」ということで「溢愛館のような施設を栗栖地区にできないか」ということで、動かれたことがあります。ある程度まで話は進みましたが、やはりこの地区にそういった施設ができるのは困る—とってははいけません、そういう声が大きかったものですから、断念をされまして、今は焼き窯で一生懸命焼き物をやっているんですよ。そういうことが1つありました。今から15年ほど前の話ですので、多分状況は違うかも知れませんが、素晴らしい方がみえれば、素晴らしい地域づくりに貢献していただけるけれども、ひょっとしてそうでない方がおみえになると、多分地域がぐちゃぐちゃになっていく—極端な話、例えば暴力団の関係の方がそれを隠してポツと住まれて、蓋を開けてみたら色んな怖い人がいっぱい集まってきたということも全くないわけではないものですから、この辺りは色々と気を付けて対応していかなければいけない部分だな、ということをもまず一つ思いました。</p> <p>それから今、学校選択制という話が出ました。他所から栗栖へ、他所から今井へという思いを皆さんは持っていらっしゃる。逆に今度、今井から他所へ、栗栖から他所へということもあるものですから、これを一方通行にすると、「なんでこっちは良くて、こっちはいけないのか」ということになってしまうわけですけれども、選択制というとなんなことも可能性としてあり得る—ということも思って、結果的に「子どもたちがいなくなってしまう」ということになってしまうと、また「市教委の施策が村を潰した」と、「地域を壊した」ということになりかねないものですから、これも少し気を付けなければいけないな、ということです。</p> <p>それから先ほど「他の市町から犬山へ」という・・・数を増やすだけの考えならいいですが、他の市町に住んでいらっしゃる方は住民税は住んでいる市町にお支払いになると思います。例えば犬山でも学校の給食費は中学校300円、小学校260円ですが、実際にはそれ以外に1食当たり150円から200円分ぐらいの市費が投入されています。そうすると犬山市に税金を納めていらっしゃる方に犬山の金を使うということになると、「本当にそれはいいのかな」ということも思わないわけではないですね。ですからその辺りも含めて、総合的に考えていかないといけないな。損得だけではないかかも知れませんが、その辺りも一緒になって、これから考えていく必要があるのかな、というふうに思いました。すみません。以上です。</p>
山田市長	<p>この議題についてはそろそろ区切りにさせていただきたいのですが、何かあれば最後に。いいですか。</p> <p>では、先生方どうですか？ この議題についてご意見が何かあれば。</p>
祖父江校長	<p>難しい問題ですね。ただ、教育というもの—特に義務教育というものは、極論を言えばサービスだと思います。是非、市場原理が強まることのないようお願いしたいと思います。先ほど「小学校が拠点になる」と言われましたが、正しくそうだと思います。そういった観点も大事にさせていただけるといいかな、と思いました。すみません。</p>
山田市長	はい、ありがとうございます。
福島校長	<p>途中から教育の問題というよりもまちづくりの問題、まちおこしの問題に変わって、非常に深い問題なのだなという—小学校と中学校の問題は、非常に深い問題な</p>

	んだなと思って見ていました。ある授業だけ小学校合同で授業をしてみるとか、そういうものは非常に有効かな、というふうに思いました。高等学校の事例でも、北海道などでは非常に過疎が進んでいて、そういうところは本当に通信を高校にとり入れて、合同で授業をしたりということもやって、サテライトみたいにやっているところもあります。ある教科の授業は少人数で行うことが難しいということであれば、サテライトみたいな感じでやって、学校を維持していくこともできるかな、と思いました。
山田市長	ありがとうございました。 では、議題の3つはこれで終わらせていただきたいと思います。 次に「自由討議」ということですので、皆さんのほうから自由ですので、何か問題提起やご意見があれば伺いますが、よろしいでしょうか。
奥村委員	いいですか。
山田市長	はい。
奥村委員	犬山市とソフトバンクが教育に関しての提携を結ばれている・・・
山田市長	教育ではないです。まちづくり全般です。
奥村委員	教育ではない。そうですか。先ほどの栗栖と今井とペッパー君を借りてというように、何か今後の展開を考えられているとか、教育にソフトバンクのほうから何かいただけるとかそういう情報がもしあれば、また教えていただきたいな、と。
山田市長	プログラミング教育が始まっていて、そこも視野に入れて、まずそこに興味を持ってもらおうという意味で、確かめは置きました。
滝教育長	元々、今井、栗栖、池野の小規模校3校は「小規模校ネットワーク」ということで、「他の学校との交流の手段を考えましょう」とやってきた経緯があります。そこで犬山市がソフトバンクと提携ということがあったものですから、「ペッパーを置いたらどうか」と。今どこにペッパーは置いてありますか？
事務局 (神谷学校教育課主幹)	今井から次に移るか移らないかというところですよ。3校を回していますので。
滝教育長	そういう体系です。
奥村委員	ですから、今後どう、市としてあるのかな、とか。
山田市長	プログラミングはやっていかなければいけないので。あれは何年からでしたか？もう始まっていますか？
事務局 (神谷学校教育課主幹)	2020年からです。
山田市長	2020年から。ですから、少なくとも今後のそういったプログラミングの教育の授業づくりの参考にしていかないといけませんね。単に「入れた」ということだけではなくて、やはり今後の授業づくりのための研究素材として検証していかないといけませんね、その辺のところは。ただ入れたというだけではなくて。それはお願いします。検証して、今後の授業づくりに反映しないといけない、ということです。
奥村委員	もう少しソフトバンクさんからそういう何か協力いただけるものがあれば。市のほうからも、お願いしたいなと思います。
山田市長	他にありませんでしょうか。特にはいいですかね。 さっき紀藤さんからも話が出ましたが、教科担任制の流れというのが出てきたわけですよ。僕は前に「小学校で教科担任制はできないか」と言ったことがあります、一般質問のヒアリングか何かの時に。結果的には国が言い出したというのか。あるべ

	き姿として、どういう形がいいのかというのがもし、現場として何か思いがあるのであれば。「教科担任制なんていかん」というのか、もしくは教科担任制のほうがいいのか、やはりそこは考えなければいけません。国がもし本当にそうしていくのであれば。まだ決まったわけではないですね、あれは。
紀藤委員	決めたわけではない。
山田市長	あれは確か大臣が言い出したんですね。
紀藤委員	今まででも高学年になると学年の先生同士が話し合っ、当然、音楽とか家庭科は「こうやって入るから」、「お互いでやっこう」、「体育をやっね」とか。要するに女性の方が妊娠されていてやれないときとか、そういう時に学年で都合に合わせて教科担任をとったことはあります。ただ全部の教科をやろうとすると、大変なことになります。担任のやるべき教科はこれとこれだとできるだけ絞って。それをこれからは、私自身が思うのは、教員の多忙化解消にもちろんもっていかねばいけな。プログラミングはやらなければいけな。英語やらないといけな。どんどんと教科が増えていく一方ですから、それを全て担任がこなすというのは、不可能に近いと思います。「広く浅く」ではなくて、最近「深く」というものが出て来ているので、是非今後は考えていくべきだろうな、と。特に今回の学校訪問でも小学校の英語なんかを見せてもらって、今度は英語の先生がやっている中学校の英語の授業を見ると、やはりそれは考えていかねばいけなかな、と。教科担任で英語の先生がいくらでも余っているのなら、教えてもらってもいいので。それから中学校でも技術科の先生が家庭科の先生でもいいですが、一人は要らない、2分の1人でいい。だから技術科の先生に仮免で「申し訳ないけれども数学をやってください」ということになるよりも、近くに小学校があるのなら、家庭科の先生が小学校の家庭科を教える。そうすると小・中で上手くできるのではないか。
山田市長	シェアリングエコノミーで人材のシェアを—そういうしくみが出来るといいですね。
高木委員	私も紀藤先生と意見としては全く同じです。教科担任ができるのなら、進めるべき方向だなと。先ほど言われた働き方改革になりますし、小学校の先生は、本当にあれだけの教科を全て教えようと思ったら、授業研究して、ということになるので、負担は大きいのだろうな、ということをおもいます。また逆の言い方をすると「それだけの教科の先生を揃えな」ということで学校の規模等がまた問題になってくるな、とおもいますし、そこを上手くシェアリングなどの方法も考えつつの—ということになると思うし、先ほど言おうとおもっていましたが、中学校で学級数が9ということになると、結構厳しいですよ。教科担任は現状として。さっきの表で見ると42年ぐらいに東中と南中が9クラスになるという現状ですので、現状として中学校となると結構、今、言われたように仮免の先生がやはり必要になってくるというのは、現実であるわけですから、そこら辺も含めたあり方というものを考えていくべきだと私はおもっています。
滝教育長	聞いてもいいですか。 今の教科担任制というと、学年の枠も取り払うわけですね？
高木委員	その辺りの具体的な話は・・・
滝教育長	中学校の教科担任制は3年生の担任をやっている数学の先生は2年生や1年生の数学に行ったりもします。例えば今、先生がおっしゃった小学校での教科担任制ということは、6年生の例えば英語の先生が5年生の英語、4年生は—英語がなくて外国語活動になりますが、—他の教科で言うと体育、6年生の体育の先生が5年の体育も4年の体育も3年の体育も行き得るという感じですか。

紀藤委員	それもあり得るし、学年の中でクラス数が多いところだとお互いに・・・
滝教育長	小学校では昔は教科の専任教員がいましたね。音楽とか専科教員がいましたが、今はもう専科教員がめくられましたよね。ですから学級によっては1組の担任の先生が2組、3組の音楽も行きます。その代わりに1組、2組、3組の体育については3組の先生がやります。これはもう日常的に小学校では行われています。だからこれは一種の教科担任制なんだけれども、全くの教科担任制の考え方からいくとするならば、それこそ6年生の算数の先生は5年にも4年にも極端な話、1年生まで広げることになりますね。そういうことを想定されてみえるのか、同じ学年同士の入れ替えなら今でもやっています。それをもっと拡大しようというのか、或いはもっと小学校も中学校もいけるようにしろというのか、その辺は様々な形があるので、一気に・・・だけれども、小学校の高学年はなるべくそういう方向に持っていけたらいいな、というそういうお考えなのか。
高木委員	そういうことです。
滝教育長	そうですね。
高木委員	私の妻も3クラス社会を見にいたりしていますので、それをもう少し広げていく方向が今後の方向だろうと・・・
滝教育長	もっと教科の専門性を生かしたようなーという感じですね。
山田市長	とにかく子どもにとって分かりやすく楽しい授業を作っていくためには教科担任制というのは一つの手法としてはアリだと思うので、小学校でも本気で少しその辺りを考えたほうがいいと思います。今、教科担任制的な運用をしているという話ですが、それがこちらには分からない。だから、いつも言いますが、見えるようにしておかないといけませんね。
滝教育長	一回モデル校を作ってやってみましょうか、大々的に。
山田市長	それはいいことですね。
滝教育長	今年はもうスタートしてしまったから難しいかも知れませんが、来年度に向けて小学校の高学年を中心に、より教科担任制に近い形にするように「こんなモデルがありますよ」ということで示せるといいかも知れませんね。
山田市長	それはいいことですね。
紀藤委員	中学校でも1学年5か6・・・6学級が理想ですけれども、6学級ぐらいあると非常に教科担任制がやりやすいですね。教科の先生が3時間とか、それを進めるには。それがどんどん小規模になって、3学級しかないといったら、もう1人で全てのクラスの音楽をやらなければいけないとなったら新任の先生が入ってきたらパンクですよ。ベテランの人だったらやれるかも知れませんが。そんなことを考えていくと、教科の時間数が例えば音楽も2時間あったものがいつしか1.5時間と変則的になって、色々なひずみが出来てきていますが、やはりやりくりできる学級数を維持できないところに関しては、交流が最も適しているのではないかと思います。
山田市長	是非、モデル的な展開でもいいですし、やはりそういう所を我々もきちっとチャレンジして、検証していきたいですね。
滝教育長	頭の中に少し形が・・・また相談しましょう。
高木委員	学校によってまちまちですから、
滝教育長	それは学校だって・・・
高木委員	裁量があるので、その現状をまず教えてもらって……
紀藤委員	人間関係もあるので、
滝教育長	要するにそれを調べる・・・

高木委員	やってみえることはある程度把握はしているつもりなんですけれど。
山田市長	是非来年度に向けた検討というか、やれるといいですね。
滝教育長	1学年が3学級だと3人しか担任がいないですが、5、6年生で一つの枠組みと考えると、6人先生がいますので、6クラスでこの教科持つとか。全部が全部はいけないから、例えば算数と国語については担任が持ちましょう。他の教科については教科担任でやりましょうというふうにいけば、比較的動かしやすいですね。
山田市長	それは少し教育委員会のほうで検討してもらって、またこの総合教育会議の年度のどこかのところで後半でいいと思いますが、「結果こうだったよ」ということを見えるようにしていただければ。
滝教育長	わかりました。
山田市長	お願いします。 はい。あまり言うともたまたま……。今日は教科担任の話だけにしておきます。2つも3つも言うと。
高木委員	言っていただいてもいいので。
山田市長	いえいえ。僕は前に神谷さんには言いましたが、僕もやはり全国的に色々な面白い試みをやっているところがあって、東京の……。なんでしたか「宿題をやめよう」みたいな……
事務局 (神谷学校教育課主幹)	麴町中学校
山田市長	そうでした。麴町。ああいう極端な例にすぐに飛びつくという意味で言うわけではないですが、やはり色々な事例を検証していくことはやはり積極的にやらなければいけない。これは本庁の職員に僕は言っていますが、「情報のアンテナは高く敏感に」。やはり民間の人材も含めて、多様な人たちと関わりをもって、その中で取り入れられるものは取り入れたり、連携すべき人とは連携をする。こういう姿勢というのは持たないといけないので、そういうことを積極的に情報収集して、「こんないいことだったら、この部分は犬山に取り入れられるね」とか「ここは少し違うよね」とかそういうことは絶対あるはずなので、そこを貪欲にやれるといいな、とは思っています。そういう研究、検証からアクションという。ただ考えるだけで終わってはいけないので、その中でアクションする部分というのは出てくるはずですから、そういうことができるといいな、と。麴町のことでいいのですが。色々な独特な手法をとっているところはありますね。公だけではなく、民間でも。
滝教育長	そういう特色のある学校……
山田市長	そうです。そういうものを積極的に……。もちろん教育委員会の皆さんは良く研究はしてみえると思いますが、やはり研究からアクションに繋がるようなものが出てくるといいですね。
紀藤委員	すみません。
山田市長	はい。
紀藤委員	言おうかどうか迷っていたことですが、話し合う必要はないので。僕もまだ頭の中がまとまっていませんが、「子ども未来園のあり方」のところで、犬山幼稚園も含めて、ハード面は分かりますが、それを含めて、ソフト面で犬山幼稚園の職員も保育園から異動してきます。犬山幼稚園だけが違う教育をやっているのだらうか、という「カリキュラムは同じですよ」というのであれば、その辺りのところの見直しも必要なのではないかな、と。それがどういうふうなのか自分の頭の中ではまだ何も思いつかない。ただ預かる時間が4時間と片方は保育園だから長

	<p>いだけの違いなのか、いや全く教育的な内容が違ってきているのか、その辺のところ。次回がありますから、色々なところでご意見をもらって、その流れも考えた方がいいかな、と。</p>
山田市長	<p>はい。問題提起ということで、また会議の中で検討していけたらと思います。あとはよろしいですか。</p> <p>はい、奥村委員</p>
奥村委員	<p>はい。通学路についての一教育委員会で緊急営繕などで市のほうからも助成をいただいで昨年度、雷のこととかで沢山の予算をいただいで有難いと思っております。それ以外にも犬山市の教育委員会としてはグリーンベルトですか、を引かせていただく予算もいただいではおりますが、それ以外の市への通学路の改善の要望というのは、やはり土木管理課に回って、各学校のPTAから出てきたら「今年もだめだった」、「今年もだめだった」というようなことが非常に多く、実際のPTA活動の中では「危険な箇所を教えてください」という要望を出されても「結局だめだろうな」という一「本当は危険なところがあるけれども、言ってもダメだから出さなかった」ということもあったりするので、やはりそういったところは、なぜやってももらえなかったのかというのは、各学校に教えてあげるべきだと思いますが・・・。</p>
山田市長	<p>やってない？</p>
滝教育長	<p>やってありますよね。例えば横断歩道でも待機場所がないと横断歩道が引けない。或いは前後、左右100メートル以内に横断歩道があると引けない。それぞれ多分理由があると思います。通学班の改修要望の右側に当局の回答があるはずです。それを読んでいただくときちっと多分回答はしてもらっているはずです。</p>
奥村委員	<p>そうですか。</p>
滝教育長	<p>それが多分、伝わっていないのかも知れません。それをきちっと伝えるように学校現場には伝えたいと思います。</p>
奥村委員	<p>本当に危ないところと、事故があったところでも、やはり何も変わっていない。市で出来る限りそういったところは何かしら・・・「法的にできない」とか「警察の区域」とか、色々な区域一管轄があつて、</p>
滝教育長	<p>市道と県道と国道で管轄が違うので、例えば犬山市だと国道は触れません。まず原則として道路端の草でも刈れない。横断歩道はどこの管轄、信号はどこの管轄、歩道橋はどこの管轄、標識はどこ、と、あるものですから、一概にバーっと言えません。例えば教育委員会としても関与はしますが、市であれば市長を含めて、その関係の課を集めて。県であれば、県議と一緒にいって行って建設事務所に行きます、要望はしているものですから。警察にも行きます。警察の方にも入っているかな。</p>
事務局 (長瀬学校教育課長)	<p>はい。交通課と生活安全課と来ていただいでいます。</p>
滝教育長	<p>僕が勝手に思うことですが・・・</p>
山田市長	<p>ただ、理由の説明はしていますが、説明がはっきり言って分かりにくい。だから、これは土木のほうの一もちろん土木の関係だけではないですが、分かる言葉で伝えないといけない。たまたまの例で申し上げますと、上野に上野橋という所がありますが、あそこも昔から「信号を付けてくれ」と言われています。でも現実に付けようと思うと色々なことをしなければいけません。僕は議員時代からも言われていて、「こういう理由で難しい課題があります」と言われる人には説明をすると、「なるほどな」とおっしゃいます。というのは、沢山の道路が集中していて、信号を付けようと思うと「交差点部分から延長何メートルの幅員何メートルに拡張しなければ</p>

	<p>いけない」とか、「歩行者が滞留する場所の歩道を広げなければいけない」とか、そういう条件というものがあります。それを口で説明してもなかなか分からないので、今、区長に渡すような資料を作っていますが、「こういう課題がありますよ」というものを。作らせても、最初に来た文章というのは分からない。普通の人が見ても理解できない。そもそも「信号は市が付けるものだ」と思っている人がいますから。そういうところから「誰が何をやるのか」、「そこにどういう課題があって、どれぐらいのお金がかかるのか」、しかも「場合によっては道路を一方通行にしなければいけない」とか。そうすると単にお金だけでなく、住んでいる人の合意もとらなければいけないとか、そういうことを見えるようにしておかないといけませんね。ですから理由が相手に分かる説明になっているかどうかです。少しそこは工夫したほうがいいと思います、土木と連携して。そうすると「対応されてない」－「されていない」というところしか人は見えないから。できないこともあるので、理由を見て欲しいですけど、理由が分かる文章になっていなかったら、説明していないことと同じになってしまうので、伝わる説明にしておかないといけない。要望に対する答えを。本当にそういうふうにしなければいけないです。冗談を抜きで。部長、お願いします。</p>
事務局 (中村教育部長)	はい。連携して。
山田市長	説明が、子どもが読んでも分かる文章にしなければいけないということです。
事務局 (中村教育部長)	答えのもらい方を工夫するようにして。
山田市長	<p>そうですね。それは大事だと思います。</p> <p>あとはいいですか。</p> <p>では、時間も大分迫ってきているので、自由討議については、本日はこれぐらいで区切りにさせていただきたいと思います。</p> <p>「その他」ですけれども、事務局から何かあればお願いします。</p>
事務局(小枝)	<p>次回の総合会議は、10月下旬から11月に開催したいと思っております。日程等の調整につきましては、改めてご連絡いたしますので、よろしく願いいたします。</p> <p>以上です。</p>
山田市長	<p>はい。長時間にわたりましてありがとうございました。</p> <p>本日の総合教育会議はこれをもって閉会とさせていただきます。</p> <p>ありがとうございました。</p>
< 閉 会 >	